

## 2-9 福島県東部におけるラドン観測 (VI)

### Radon Observations in the Eastern Part of Fukushima Prefecture (VI)

東京大学 理学部  
Faculty of Science, The University of Tokyo

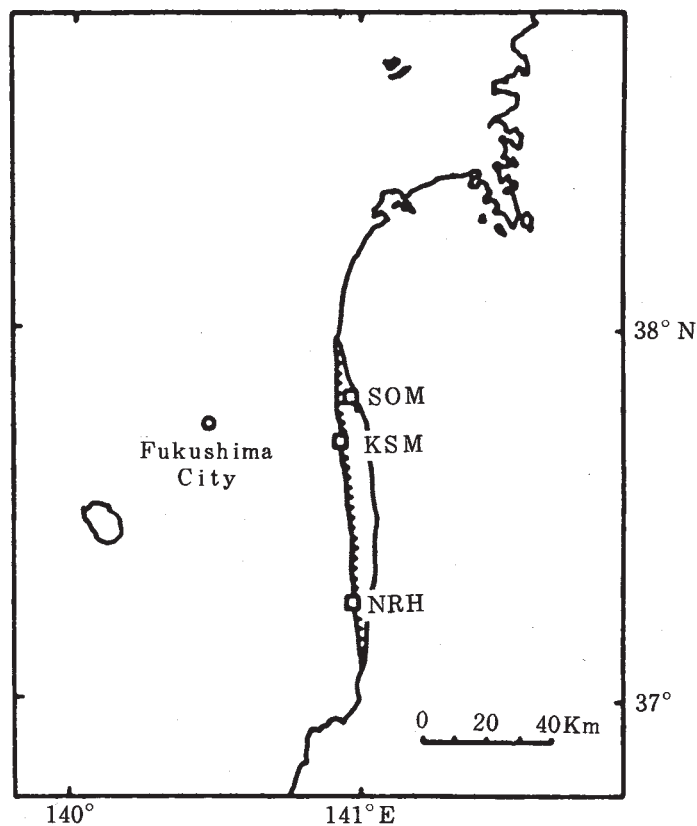
前報<sup>1)</sup>にひきつづき、福島県東部における地下水中のラドン濃度の連続観測結果(1986年11月-1987年11月)を報告する。

観測点は、第1図に示す相馬(SOM)、鹿島(KSM)、及び楡葉(NRH)の3点である。第2図は各地点における連続観測の記録で、1時間毎のラドン濃度(積算値)の24点移動平均値を、この期間の平均値に対する相対値で示したものである。

ラドン濃度の変動はKSMが一番大きく、夏期に高く冬期に低い。これは他の地域にも見られる典型的な季節変動のパターンである。SOM及びNRHではラドン濃度は安定しており、その変動幅は小さい。

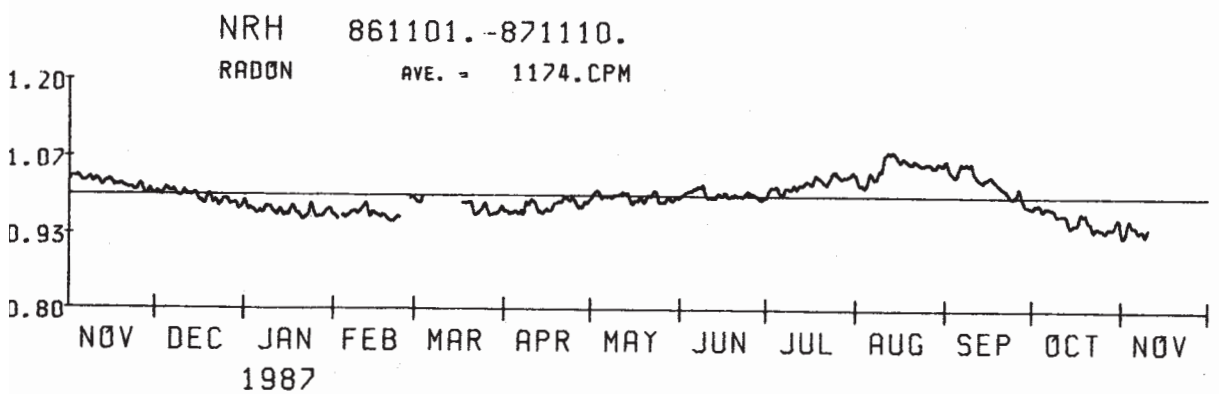
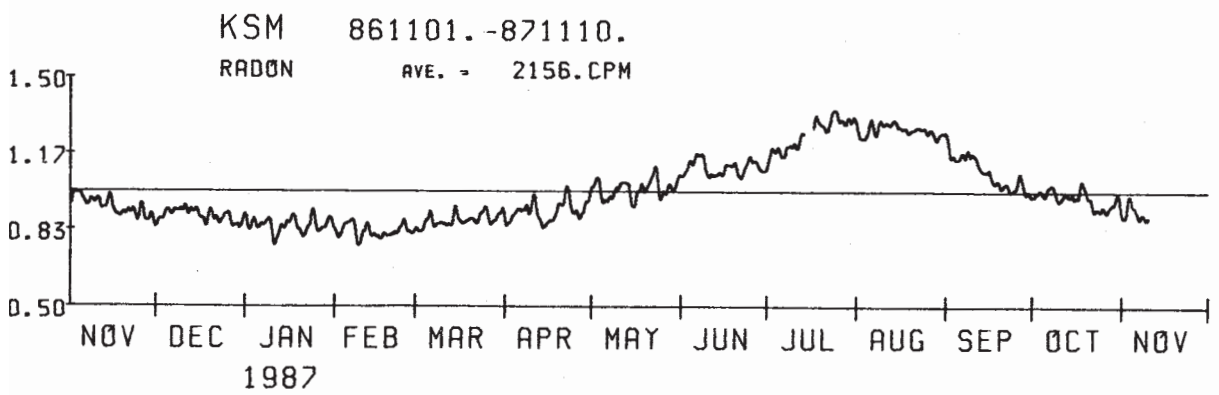
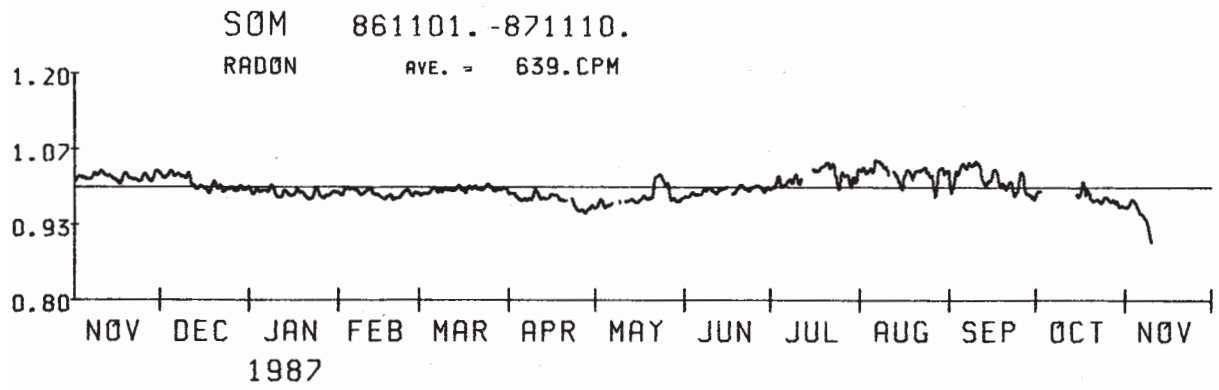
#### 参 考 文 献

- 1) 東京大学理学部：福島県におけるラドン観測(V)，連絡会報，37 (1987)，81-82。



第1図 福島県東部の地球化学観測点の位置

Fig. 1 Locations of geochemical observation sites in the eastern part of Fukushima Prefecture (SOM: Soma, KSM: Kashima and NRH: Naraha).



第2図 SOM (相馬), KSM (鹿島), NRH (楡葉) における地下水  
中のラドン濃度の変化 (1986年11月—1987年11月)

Fig. 2 Temporal variations in the radon concentration in groundwater at SOM (Soma), KSM (Kashima) and NRH (Naraha). (November, 1986 - November, 1987).